

甲子根百

029  
402  
1



027  
A04  
1



甲斐根百韻  
八景

愛知女子  
11826  
書圖

甲斐根百韻

7-1-3  
9822  
167





いしはく 猿すり 暮せし おひつり  
何人ともまの 留ふ 赤書の 舟を ぬる

安永唐子年

半松屋 鼓水



宇川 恒政



張着の 繪画

ろ

叡山 雪 腸

中渡 糸大細を 通行

き 此 下 まで

め ち り 雪 と

叡山 の

折 え こと

う ん せ

け 乃 あり

かの





六のひねれ船氣ふ舟あか  
 舟もやあはらひもさやう  
 舟もあはらひもさやう  
 かれ美の山さう——松浩  
 うれくさうもあてあはれ

美山のあはれさうも

雪のゆくの舟

信  
 規

直林庵鐘

外山二位堂願云

静ろれ

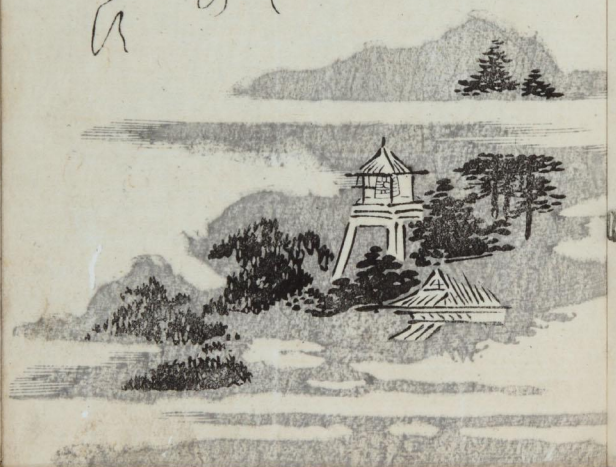
夕のあひ乃

一急きこて

見れをあはれの

池也

小いこい



爰想園師の

いづしよと官水溜るぬ  
く河の池の水ぞうが  
活とわぬもひうしも  
日とわぬもさるの  
海乃とさるの  
何と長者の出る

又吉  
秀介

夕  
鐘もあふしむ  
はるぬ

中富士晴嵐

合氏武松舟神相尚松長

明行らひ

わ〜〜〜

みせ〜

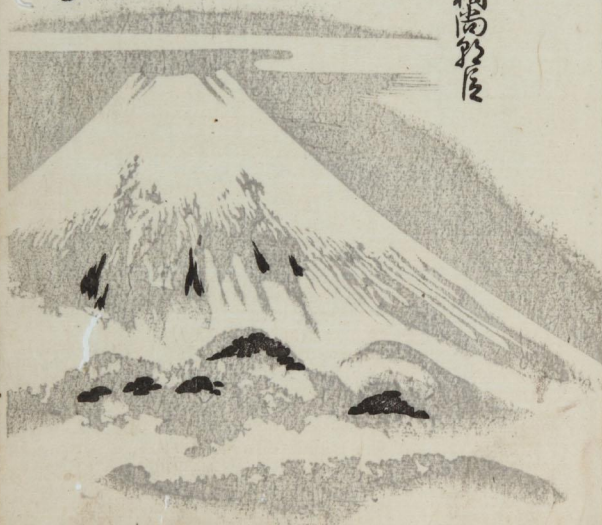
一む〜

雲も

は〜〜

ふ二の

ま〜ゆ





西川八幡を觀  
 橋の福のふゆやわらわら  
 西川八幡を觀  
 橋の福のふゆやわらわら  
 西川八幡を觀  
 橋の福のふゆやわらわら  
 西川八幡を觀  
 橋の福のふゆやわらわら  
 西川八幡を觀  
 橋の福のふゆやわらわら

西川八幡を觀  
 橋の福のふゆやわらわら

孫の志  
 祇帝

石和流堂

日御中納之越出ん

西川

あつたを

波の

水乃

あつたを

あつたを

あつたを

あつたを



夕子の舞をそと潮に  
 岸を渡る人の心を  
 軒の檝くさくさの音と  
 舟の音とわかれの音と  
 舟士の歌の音の音と

陸橋小

夜あけの音

ぼんぼり

舟

節花亭

静壽

新華秋月

武家路華相度陰々

名うー ちの  
 おり の わんき  
 舟の 音の  
 秋の ひ乃  
 月や 水  
 志乃





涇水松風をせしく  
 後生のきぬ少くして  
 あつた乃を産りてはれを  
 せりあふひはれのをあ  
 けしひあふれはれをこ  
 きはし止れはれを  
 せりあふれを  
 こひあふれを

七中の一の

豊小  
 まの  
 月

香樹  
遠亭

酒新長雨  
 吟泉中絶るる

くらねまの  
 あつた  
 けの  
 お小  
 ぬるる  
 ぬれ  
 雨あふれ  
 や



あつらふの紙波ハ

雲のあふくふ降りて

こぼるのしり反響ハ

ゆれ揺るのそよひ

いざよほふ

とどろく火のけり

澄せえふ更すそり

緑 起き雨の中

あふくや連飲中

花

空峰雪

久世三位通夏

り乃

かけハ

これ け

て 雪

志

の

や



御嶽の雪河ハ  
尾上此坂の雪まふ  
雪まふしきまふ

打奥深き  
雪河の神さひわれふ  
千曲はくらの雪ひか  
おまひあすぬきあけ  
いふく降るり

雪の音  
あ〜の〜や

五馬園  
梅州

白根夕照

中山大綱を頼心

六の夕

影は白くけも

はれて空

ひよあそ緑れ

雪ふらぬ

あま



ふふおろしを流布山の  
みくろを眺むる海を  
くろくろかたきき  
そは白のそり列も  
空をくろくろ  
まろくろくろくろくろくろ

雪と白根の雪の象 鼓水

向くは白根の雪の象 鼓水

酒旗の門小酒旗 祇郎

多き雪の初めは 位親

御座ぬま何憚ぬ大座 梅州

初めは雪の初めは 初道

一輪は月のあまの月 元貴

音は中 初道の初め

平橋尾



管絃不種くくくぬ蘭將 鳥曉

不長厚のわくは片定の切飯 中涼

小言如妓の志危くくく魚鏡 喬樹

月くく短く體を悟くは 紫明

筆くぬくく八又の経緯達 松澗

不書くく如制れも互取 沙書

くくくくくくくくくくくく 深草

鞠くく一吸 断て川く水 舟呂

車舟くくくくくく心切よく 花青

何れはくく日月くく桐の星未露れ 古波

送くくくくくくくくくくく 舟車

清くくくくくくくくくくく 氷雪

撰くくくくくくくくくくく 洞沙

涙くくくくくくくくくくく 池水

飛くくくくくくくくくくく 夕風

巫了痛の泣控くくくく 中云

聲入ふ之洲の橋をのぞき 平坡

西日の星の 紅の細道 局長

便船をのぞく川をのぞく上川 染乾

十車福の海の花 八重代 漢十

振ふ櫓火とりつゝ塵 断 永秋

夏くらすのそよ風をのぞく 海龍

太刀持の癖をのぞくと 御神一 記千

ねり物とよとよと 泉涌寺 六糸

仲山と牛のき駄小舟 第 存昔

津 橋ととより向ふ世ぬ 三花

月影小舟の光の海流 龜石

つわとよの瓜のすけ 廻板 縁月

<sup>ニラ</sup>大橋のひやうとみとあそび 雨夕

去ぶく船をのぞく箱五 紙山

呪ハ〜と透さぬをのぞく 風 白朋

水と海〜とよとよ 妙ら吹 素流



世の累小成て年の暮る人 畔控  
 控しめ房の三日月にぬ 梅六  
 五月の少知津の岸と魚又の浜 何彦  
 自由の志れと熊野の小供 秋鹿  
 信認負し海と油草少引包 赤鏡  
 鏡ととらふて執むお宅 倚壁  
 初冬の冷きと里の首の月 曲肘  
 以幸の終小風と初らく 五氏

初花ととる人小あつとぬ人と 喜澤  
 真智とて山と最善のりとも 仙舟  
 三  
 柳文の書へふ海は八咫し 五原  
 菊はく丸も新通ハ掛らぬ 馬橋  
 吉梅へ藤小庭打竹とて 卯初  
 別を果りや和り上温泉村者 文休  
 貸中の中少船渡ハ控しとの 植舟  
 海一の管より新漕と淋 十荒

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

三ノ

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十

藤原公純の今時

斗十



伴丹之々々々々一様おろろし物 様之云

大崎のののののののののの 金牙

限しの中中中中中中中中中中 白麻

控めしとととととととととと 半に

月之をををををををををを 母必

はくくくくくくくくくく 待龍

をををををの地地地地地地地地 完庫

湯柳くくくくくくくくくく 由系

尊皇御小つれに申理かみり斗 左様

伯父のぬきはは差圖板 糸巻

候是も小生をさしてはまづく 能一

大種も派の進候もかみ 後核

宗古もをををををををの申十日 芦仙

田植小くくくくくくくくくく 似来

平八もをををの有く娘の取 兼義

くくくくくくくくくく 巻向

よゝ果の舟ぬ碓氷の道草清 亭年

小蓮も花小舟一輪寄 仙舟

東宮小操舟の流る夕月相 曙白

くさくさせしよとくさくさるは 取家

奢ぬれ池田の古れ流石少 舟沙

ニク〜月之〜は素麻の色 彦舟

借〜れて印と付ぬ常白菊 如風

らの舟〜舟を調〜調〜られ 素麻

と〜く〜中〜河〜屋〜ら〜る〜の〜よ〜く〜て 田龍

河〜る〜く〜と〜ふ〜ぬ〜〜〜〜〜 川亭

花の首も入〜も甘ぬ〜も〜〜〜 引鱒

き〜も〜勝〜る〜と〜侍〜う〜て 百韻 孤石



東朝の柳門小鼓水初宗あり〜人あり

之白帆 瑞小急能と 碓氷の流



山て門邊を師の侍と云はれり世に小  
 可風と云はれりこと一か國軍成る松の  
 かりと云はれり八景と云はりの波ありと云  
 り久の連白と云はれり雲と云はれり  
 西の日の月と云はれり雲と云はれり  
 雲と云はれり雲と云はれり雲と云はれり  
 と云はれり松

八秋亭 斧柯



